

あゆみ

No. 176

令和 6年 3月27日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 苓山寮・第二苓山寮
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内680
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
施設の旬の話題を「**レイザンTOP.I.X**」にて更新中です。



『令和六年度重点目標と虐待防止目標』

施設長 鮑田 一夫

令和六年度が始まるうとしていきます。時の流れは常に一定で区切りはないのでしようが、人は古代から暦を作り時の流れを区切ってきました。そうすることで生活のリズムを作ってきたのだと思います。苓山寮・第二苓山寮の利用者さんにとつても職員にとつても年度替わりは大きな区切りになります。利用者さんはいったい誰が担当になるのかが大きな関心事ですし、職員は新たな気持ちで仕事を仕切り直す時に当たります。

そこで、当施設では理念と方針の下に重点目標と虐待防止目標を年度毎に改め、その目標を遂行することで方針の実現に少しでも近づけるようにしています。令和六年度の重点目標は「疑問を持つとう」虐待防止目標は「意思の存在を確信し大切に伝える」です。どちらも抽象的な目標ですが、それだけに方針の七項目を実現するためにアレンジしやすいのではないかと考えています。支援施設は利用者さんにとって家と同じですから、ある意味毎日毎年同じ事を繰り返すことが必要であり、大切なことでもあります。

いつでも安心して居られる場所とはそういうものだからです。しかし仕事として捉えると、同じ事をただ繰り返すことはマンネリ化を招き、就業意欲の低下や仕事の質の低下にも繋がります。そこで、ちよつと立ち止まり今の仕事のやり方や内容、利用者との関わり等に疑問を持つてみる。それが新たな発見や改善のヒントに繋がっていく、就業意欲や仕事の質の向上に影響するのではないかと考えます。

また「意思の存在を確信し大切に伝える」は言うは易く行うは難しの目標です。自分から意思を表すことが難しい利用者の皆さんの意思を汲み取り選択する手助けをする。日々の支援の中でそういう場面は次々に現れます。方針の中にも「利用者の意思決定支援を中心に据え」という文言があります。それを空文にしないよう「大切に伝える」実践を職員全体で取り組んでいきたいと考えます。支援員だけでなく医務も給食も事務も、もちろん私も利用者の方の皆さんにとっては区別なく隣人なのです。

サービスの現場より



『令和五年度を振り返って』

第二茶山寮副施設長 飽田 公博

令和五年度を振り返ってみますと利用者の方々の高齢化、それに伴う体力の低下が目につきます。利用者の方々の平均年齢が六十歳余り、支援区分が五・二五となります。今後毎年平均年齢は上昇していきまのでその体力の維持、向上にどのように努めていくのが最大の課題です。そのような中で、今年度は新型コロナウイルスによる感染症のクラスターが多発し、昨年の六月は一ヶ月余りが完全に機能麻痺状態となりました。利用者の皆様には大変な不自由とご苦勞をおかけしてしまいました。幸い重篤となられた方はいらっしゃいませんでしたが今後も注意深く用心して参りたいと思っております。

さて、利用者の皆様の日中活動として主たるものを御説明しますと、一つは歩行です。先程御説明したとおり体力の維持、向上には欠かせないものと思っておりますので今後とも継続していきたいと思っております。他にも生産的な活動として晩柑の皮剥きや墓所清掃なども行っております。社協からの依頼により指定されたお墓の清掃を行っております。又、晩柑の皮剥きについても皮を和菓子の原材料にするよう五月くらいまでは毎日のように依頼がっております。このような作業については利用者の皆様もいくばくかの収入にも結びつき好んで取り組んでおられます。利用者の皆様の毎日が少しでも楽しく元気に暮らしていけるように、今後ともいろいろな取り組みで参りますので、利用者の御家族、御関係者皆様のご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。



『担当利用者さんへの取り組み』

茶山寮支援員 松本 健史

私は四月からIさんを担当させて頂いています。まずは担当だと認識して頂けるよう、以前よりも関わりを多く持つ事を心掛けて支援してきました。日頃から沢山声を掛け、毎日のラジオ体操や食事前の嚥下体操の際は、Iさんの近くで一緒に参加し、個別の時間を設けて、塗り絵や好きな絵を描いてもらう等の支援を行う事で、次第に担当だと認識して頂けているようでした。

Iさんは七二歳ですが、色々な活動や行事へ積極的に参加されています。演歌等の曲を聴いたり、歌う事が大好きな方です。カラオケでは“女のみち”や“アンコ椿は恋の花”を歌われ、カラオケ大会や荅秋祭でその歌声を披露されています。屋外歩行では先頭の方を元気良く歩かれています。歩行中には花や動物等を見つけると、「おっ」と嬉しそうに職員へ教えて下さいます。歩行を通して、楽しみながら体力を維持する事が出来ています。スタンプラリー歩行では年間百周で男性部門三位の表彰をされました。今後も健康で楽しく過ごして頂けるよう支援していきたいと思えます。



『担当利用者さんへの取り組み』

第二茶山寮支援員 中村 聡希

Kさんは入所されて三年が経ちます。すばる班に所属し毎日活動を頑張つて参加をされています。すばる班の活動は屋外での作業が主になり椎茸作業、墓所清掃、晩柑皮むきの委託作業、除草作業などを動かすことが多い活動が主にあります。Kさんはどちらかというと散歩やドライブなど外出は好きですが、体を動かしたり汚れたりする事が苦手な方でした。一年目は他利用者の傍で他者の作業の様子を見ることが多く、外に出て気分転換ができればと思いましたが、二年目になると重たい椎茸の原木を汗を流しながら運ぶことが出来たり、晩柑の皮剥き作業を時間まで他利用者と一緒に作業が出来ました。そして今年三年目は晩柑作業でも上手に皮を剥く事が出来ています。他利用者から「Kちゃん上手」と称賛されると照れながらもとても嬉しそうです。皆の輪の中に入り楽しそうにされている姿をとて嬉しく思います。準備が苦手なKさんですが、作業前には一緒に天候や気温に応じた準備をして、活動に参加して頂いています。今後も寄り添いながらKさんのペースで楽しく生活が出来る様に、支援をさせて頂きたいと思っております。

『令和六年能登半島地震』

熊本県災害派遣 DWAT 松山 憲士

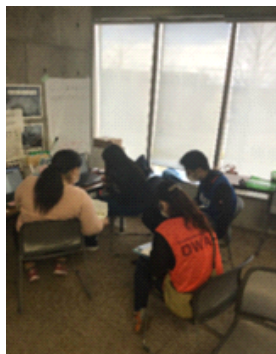
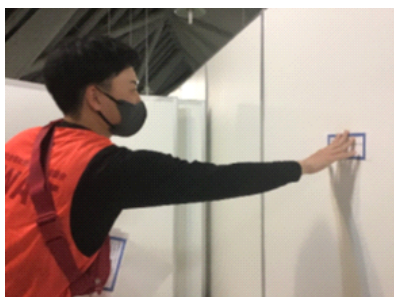
(苓山寮支援員)

二月二四日から三月三日まで石川県金沢市へ熊本県災害派遣福祉チーム (DWAT) の一員としてボランティアに行かせていただきました。令和二年度から苓山寮の代表として熊本 DWAT に登録させていただいており、これまで研修会等にも参加してきました。そして、今回出勤要請があり少しでも力になりたいという思いで参加の決断をしました。

私達熊本 DWAT が派遣された場所は金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに開設された一・五次避難所でした。一・五次避難所とは旅館やホテルなど二次避難場所が決まるまでの間に使用する一時的な避難所のことです。約二百七十名の方が生活されており、熊本 DWAT 以外にも他県の DWAT や石川県の医療チーム、介護チームなど沢山の支援団体が派遣されていました。その中で熊本 DWAT が

任された支援は避難者の介護支援を行うボランティアスタッフの登録や出勤チェック、避難所の環境整備でした。正直避難者の介護支援をイメージしていた為最初は事務的な支援に戸惑いました。私達がすべきことなのかという想いもありましたが沢山のチームが集ま

っている環境ではそれぞれ役割が決まっております、一つ一つが大切な役割であることを実感しながら支援に励み、約十日間の活動を終えて少しは力になれたのではないかと感じております。ボランティア期間中一日時間をいただき、被害の大きかった輪島市の視察にも行ってきました。普段活動場所である金沢市はほとんど被害はなく、私自身も地震で被害を受けた経験がなかった為あまり想像が出来ませんでした。しかし、輪島市が近づくにつれて道路の陥没や建物の被害が見られ始めました。そして輪島市に入ると行方不明者の捜索や建物の倒壊、火災で焼け野原になった場所などテレビで見ていた光景を実際に見て言葉を失いました。復興は全く進んでおらず本当に同じ石川県なのかと感じたことを覚えていきます。自然災害の脅威、いっどこで起きるのか分からない恐怖、本当に怖さを実感しました。苓山寮でも普段から様々な訓練を実施しておりますが、これからも集中して真剣に取り組んでいきたいと思えます。これからも普通に生活できることに感謝し、利用者の皆さんと楽しい時間を過ごしていきます。



亀川小学校 駒打ち体験

65名の生徒さんに参加していただき、利用者の方々と一緒に駒打ち体験を行っていただきました。原木は1人2本

出来る様に準備をしていましたが、生徒さん達はコツをつかむのが早くあっという間に打ち終わりました。皆さんから「まだやりたいです」「楽しいです」等の声も聞かれ嬉しく感じました。

最後に椎茸収穫体験も行って頂きました。時期的に思った程の収穫は出来ませんでしたが、椎茸を見つけた生徒さんは「あった」「こっちにもあるよ」等と声を掛け合い仲良く収穫を行っていました。生徒さんの若々しい元気な姿を見て、利用者さんや私達もパワーをいただきました。



ひな祭り交流会 3月6日

女性利用者の方は朝から綺麗にお化粧をして、着物やワンピースなど、それぞれ好きな衣装

を着て参加されました。また、今回初めてハンドリングオルゴール奏者の古川佐智子様に来て頂きました。美しい音色に皆さん「もっと聞きたかった」「よかった」と次々に感想を述べられていました。昼食は豪華なひな祭り御膳を食べ、笑顔いっぱいの日になりました。





さくらの会授賞式、
苓山寮スタンプラリー
(歩行) 授賞式

3月22日

さくらの会授賞式、苓山寮スタンプラリー（歩行）授賞式を開催しました。生活面や作業面とそれぞれの部門で特に活躍された方々（苓山寮6名）（第二苓山寮16名）を選出し、1年間の頑張りを皆さんで称え合いました。表彰された利用者の皆さんは緊張されている方、笑顔の方それぞれでしたが、賞状や景品を受け取ると嬉しそうに喜ばれていました。



【苓山寮】 年間大賞者

- ・伊津野 縫子さん
- ・新谷 八重子さん
- ・星田 佳瑚さん
- ・赤星 信一さん
- ・音山 一章さん
- ・松山 司さん



【第二苓山寮】

- ・赤藤 元一さん
- ・祝原 和則さん
- ・里 信之さん
- ・中田 哲也さん
- ・早瀬 勝徳さん
- ・堀切 雪吉さん
- ・松下 昇さん
- ・椎原 隆司さん
- ・山田 健司さん
- ・山本 直尋さん
- ・植村 史津子さん
- ・坂口 保代さん
- ・田村 のぞみさん
- ・福田 緑さん
- ・松谷 恵子さん
- ・村本 政春さん

スタンプラリー表彰者

- 男性
- 1位 園田 健斗さん
 - 2位 内古閑 元雄さん
 - 3位 今井 次男さん
 - 4位 松山 司さん
 - 5位 松田 直樹さん



- 女性
- 1位 坂口 美和子さん
 - 2位 渡部 結水さん
 - 3位 山下 久美さん
 - 4位 大塚 治代さん
 - 5位 星田 佳瑚さん



おめでとうございます(*^o^*)

マンツーマン歩行の部

- 男性 1位 松本 隆さん

- 女性 1位 栗原 節子さん

【新利用者紹介】

よろしくおねがいします



山下 稜さん

三月三日、芥山寮へ入所されました。若くてお元気な稜さんです。これから一緒に楽しく過ごしていきたいと思います。

【新職員紹介】



坂口 幸子さん(芥山寮調理員)

利用者の皆さんから「美味しい」と言って頂ける様な給食を作りたいと思います。



立山 繁さん(芥山寮支援員)

三月より働かせてもらっています。これからよろしくお願ひします。

【お祝い】

芥山寮、松本支援員に第五子となる女の子が誕生されました、お名前は穂乃(ほの)ちゃんだそうです。おめでとございます。



はじめまして

【退職職員】三月三十一日付

芥山寮

- 和田 茂樹さん (事務長)
- 兼グループホーム管理者)
- 和田 富美さん (看護師)
- 福田 優 さん (調理員)
- 岩崎 博和さん (支援員)

- 第二芥山寮
- 山田 伸吾さん (支援員)

在共おめでとございます。お礼申し上げます。元気で、益々活躍します。ありがとうございました。



日常生活の風景



山元 勝信さん

たくみ班に所属し、歩行活動を中心に取り組んでおられます。屋外歩行に参加された際は、仲の良い利用者者と手を繋いでその方が安全に楽しく歩かれるようにエスコートをしてください。食事前の時間には、男性洗面所に歯ブラシ、コップ、フェイスタオルの準備を行ってくれます。令和五年度は年間を通して朝、昼、夕一度も欠かさずに実施されており、「曲がったところが嫌い、やると決めたら必ず行動する」格好い男性です。



大久保 實也さん

今年で七五歳になられます。先日は出身地の玉名市へのドライブに参加されました。出発前までは表情固い様子でしたが「大久保さん、玉名に着きましたよ」と伝えると途端に笑顔になりました。昼食では玉名ラーメンを美味しく食べられ満足していたようです。高齢に伴い、少しずつ脚力が低下されており、自力での立位が困難になられてきていますが、今後も大久保さんが笑顔で楽しく生活をして頂けるよう支援していきたいと思ひます。

行事予定

- 四月
- 一日 辞令交付式
- 二日 えがおの会
- 六日 まゆ姫祭り(出店)
- 十二日 事業報告会議
- 十五日 チャレンジゼロ
- 二十四日 第一回管内研修
- 二七日 事業説明会・家族会総会



五月

- 七日 えがおの会
- 十日 啓明会総合防災訓練
- 二十日 チャレンジゼロ
- 二十二日 感染症発症時訓練



六月

- 一日 花しようぶ祭り(出店)
- 四日 えがおの会
- 五日 東向寺保育園交流会
- 七日 災害対応BCP訓練
- 十七日 チャレンジゼロ



編集後記

一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去ると言ひますが、本当に早いもので新年度が始まります。本年度も感染症対応で利用者様、ご家族の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。私達職員は利用者の皆様と沢山コミュニケーションを取り、又、様々なイベントを計画し一緒に楽しむ時間を作りました。時には予測できない行動に追われたこともありましたが振り返ると「そうだった」「こうだった」と今では笑い話の一つです。新年度はどんな一年になるのか楽しみです。どんな事も皆で笑って乗り越えていきたいと思ひます。